

良魚の作出に意欲を湧かす簡振相氏 生き甲斐をアロワナに見出す

取材：山崎好是

銀行を退職してからの後半生をアジアアロワナに託した簡振相氏は、ひたすら美しい魚の作出に情熱を傾けている。若い頃から熱帯魚の飼育が好きで、多くの種類の魚を繁殖させてきた。アジアアロワナの繁殖も、同じように雄親が卵を口にくわえて孵化させる習性を持つシクリッドを繁殖させた経験が物を言ったという。

白身魚の刺身と日本酒の好きな簡氏は、シンガポール市内の日本料理店を廻り尽くしてしまった。「酒がまずくなるようなまねはしない。」という人生哲学を持ち、商売のために自分を欺くのをもっとも嫌っている。

養魚池は10数面しかない、こじんまりとした養魚場だが、親魚の顔は全部覚えているという。餌は、1尾1尾、魚の顔を見ながら与えていくという簡氏の魚に対する姿勢は、養魚場を始める前に趣味で飼育していた頃と変わらないのであろう。

紅龍は紅龍、過背金龍は過背金龍、違う種類のアジアアロワナを混ぜない、他所から買ってきた稚魚を自分の所の魚だと偽って売らない、稚魚は4cm以上に成長するのを待って採仔する。いくつかの原則を頑なに守って養殖を

行ってきた。

パンダは、珍獣の代名詞。それを養魚場の名前にしたのは、マニアから一目置かれるような凄い魚を作り出す養魚場にしたいという一念からだそうだ。

“パンダの魚が最高だ！！” そう言われつつヒラメの刺身をつつきながら、杯を傾ける。そんな日が来ることを目標にして、今日も魚に餌をやる簡氏です。

パンダ水産のアロワナは、アクアマテリアル、東京ベイ熱帯魚などで取り扱っている。紅龍、過背金龍、紅尾金龍の3種が輸入されている。

なかでもパンダ水産の紅尾金龍は、“パンダゴールデン”の名称で出荷されており、手頃な価格で美しくなる個体が多いので、評判が良い。

シンガポールに出掛けた時には、52～53頁で紹介の「アロ・パシフィック」のアロワナ・コーナーを覗いてみると良い。パンダ水産の魚も各種取り揃えられている。もし良い魚がいても、アジアアロワナの個人輸入は、ちょっと大変だが、気に入った個体があれば、専門店に問い合わせるとよいだろう。



強い個性を持つパンダ水産オーナーの簡振相氏。



種親に用いられる過背金龍。どの個体も背中を巻いていて、クオリティが高い。

右の写真は、まるでパンダ水産の名前にあやかるように、30尾に1尾の割合で誕生する紅尾金龍の“スケルトンゴールデン”。鰓蓋が透けて真っ赤な鰓が見え、腹部が透けて内臓が見える。

これまでに20尾以上のスケルトンゴールデンが採れ、日本にも5尾ほど輸入された。どのような成魚になるのか、大変に興味深い。昨年、輸入された個体は、既に30cmを越えるサイズにまで成長しているが、黒ずんだ体色に金粉をまぶしたような発色が進んでいるという。

次号発行までには、若魚に成長している筈なので、是非誌面で紹介したい。類似の個体は知られておらず、このような発色の個体はパンダ水産だけである。



パンダ水産オリジナル。鱗が透明な紅尾金龍“スケルトンゴールデン”。成長すると透明度は鈍るが、独特の色彩になる。



細框で体格の良いレッドアロワナ。レッドアロワナも様々なタイプが養殖されている。